

鹿児島医セン

連携室だより

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

2007.3 No.12

東4階病棟オープンについて

本年4月1日より東4階病棟をオープンすることになりました。平成12年7月国立霧島病院との統合に際して、当院はそれまでの300床から370床への増床が認められ、病棟の増改築を行ってきました。新病棟は旧病棟の西側に増築され、一昨年10月より西病棟として開棟し、2階を手術室、3、4階を一般病棟として利用してきました。旧病棟（東病棟）のうち1病棟は休棟し、ICUを含め316床で運営してきましたが、昨年8月の完工を機に休棟中の東4階病棟を開棟することを決定しました。

当院は昨年4月鹿児島医療センターと改称し、休診中であった耳鼻科の復活、消化器内科の立て直し、糖尿病内分泌内科の新設などもあり、おかげさまで癌系の患者様の紹介も増え、316床完全に埋まってしまう日もできました。反面、急患の受け入れなど皆様に御迷惑をおかけしたことも多々あったようです。ICUは16床で運営していますが、後方ベッドの空がなく、やむなく急患をお断りせざるを得なかったり、予定入院の患者様の入院日延期をお願いしなければならない事態も出現しました。こうした事態に余裕を持って応えるには1病棟を開棟し、増床して運営していくしかないとの結論に達しました。

これを機に病棟の再編も行うことにしました。従来の東病棟を循環器中心の病棟、新しい西病棟を癌系を中心とする病棟にすることになりました。西3階は消化器内科、一般外科、耳鼻科、放射線科、西4階は血液内科、泌尿器科、小児科、東3階は産科婦人科を中心とした女性混合病棟、東4階は心臓血管外科、循環器内科、東5階は脳血管内科、脳外科、東6階は第2循環器科、東7階は第1循環器科、糖尿病内分泌科の主病棟となります。東8階には臨床研究部の研究室と展望レストランが設置されました。

東2階にはICUがあり、東4階はその後方受け入れ病棟とし、3人夜勤で対処します。また、東5階にはSCUを備え、脳卒中センターとして機能することになりました。これによりICUの後方ベッドの確保が容易になり、急患の受け入れもスムーズになると期待されます。

この度の増改築に伴い、心臓血管撮影装置の更新、32列(64スライス)CTの導入、1.5テスラーのMRIへの更新を行いました。これまでの機器と違い解像度や撮影時間などに格段の差がみられるようです。CT、MRIはオープン利用も可能です。どしどし御利用くださいませお願い致します。（統括診療部長 山下正文）



高校生ボランティアのメタボリックシンドローム検診について

鹿児島医療センター小児科医長 吉永正夫

平成18年の夏休みを利用してボランティア高校生のメタボリックシンドローム検診を行いました。参加していただきましたボランティア高校生のみなさん、ご協力いただきました事務、看護師、栄養士のみなさん、本当にありがとうございました。

平成19年度は幼児期、小学生、中学生、高校生の健康な児童生徒のみなさんを対象にメタボリックシンドローム検診を行う予定です。今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

このような検診を行った理由について若干述べさせていただきますと思います。メタボリックシンドロームは成人の問題とされていますが、その概念に十分当てはまる状態の子ども達が既にいます。問題は診断するための基準値(以前正常値と言われていたもの)がないことです。これは私たち小児科医自身が十分取り組んで来なかったから起きた問題です。私たちが使っているデータは、多くは小さな集団で、ある特定の検査結果から得られたものを用いており、健康児の大きな集団から得られた基準値を持っていないからです。

そこで、小児期のメタボリックシンドロームの診断基準が作成できるよう、健康な子どもたちの発育歴、現在の体格値、血液検査値などの調査を三か年計画で厚生労働省に申請しましたところ、申請が認められ、無料の検診が行えることになった次第です。幼児期から高校生までの健康な児童生徒の基準値を作ることが目的でしたが、初年度は高校生を対象に行いました。鹿児島医療センターのホームページに掲載しました実施要綱は下記のとおりでした。

実施要綱

1. 対象者

薬を服用していない、健康な児童生徒

2. 場所

鹿児島医療センター
(循環器・がん専門施設)小児科

3. 日時

夏休みの平日の午前中
(集中しないよう予約をお願いいたします)

4. 内容

- (1) 計測(身長、体重、腹囲、血圧)
- (2) 採血(採血量6～8mL、生活習慣病に関するもの、「検査内容について」を御参照下さい)。朝食抜きで御来院下さい。
- (3) 発育歴、運動量調査(受診票に記入して御来院下さい)
- (4) 栄養調査(時間に余裕のある方はぜひお願いいたします)
- (5) 頸部の血管の動脈硬化度を調べる検査(時間に余裕のある方はぜひお願いいたします)

5. 謝礼

ご協力いただいた方に図書券(1,000円)を差し上げます。

これらの実施要綱や、保護者あるいは学校関係者のみなさんへのお願いの文章ができあがったのが6月下旬でした。7月に入り、鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、ボランティア高校生になっていただきたい高校(私たちの病院に近い玉龍高校、武岡台高校、鶴丸高校、鹿児島中央高校)の校医の先生、校長先生に実施したい旨、お願いに行きました。鶴丸高校、鹿児島中央高校の校長先生をお願いに行ったのが最後になりましたが、その日が7月28日だったのでぎりぎりの日程になっていました。教育委員会や校長先生をお願いに行くにあたり、鹿児島県



(参照1)

医師会副会長、鹿児島県小児科医会会長である池田琢哉先生に同行していただきました。池田先生は平成12年から17年まで鹿児島県教育委員会教育委員長をされていたため、教育界からの信頼が厚く、ぎりぎりの日程だったにもかかわらずスムーズに実施することができました。この機会をお借りして心より御礼申し上げます。

8月8日には南日本新聞でもこの検診を取り上

げていただき(参照1)、上記の4高校以外の生徒さんも参加してくれました。最終的に151人のボランティア高校生が受診してくれ、幅広い検討項目のデータが集まりました。このような健康な子どもたちのデータは世界的にもなく、残りの2年間で更に大きな集団のデータから児童生徒の基準値を作っていきたいと考えております。今年度もよろしくお願ひ申し上げます。



3月1日より 禁煙外来(保険適用)を 開始しました



「禁煙外来」を開始しました。 (HISSEI 診療、保険適用)
受診を希望される方は、
総合受付カウンターにて予約申し込みをお願い致します。
診療日：水曜日(午前 9.00-12.00)

禁煙治療プログラムを提供できる喫煙者の条件

- 1) 直ちに禁煙しようと考えている人
- 2) TDS(スクリーニングテスト)により、ニコチン依存症(5点以上)と診断された人
- 3) 喫煙指数(1日喫煙本数×喫煙期間年数)が200以上である人
- 4) 禁煙治療を受けることを文書により同意している人

当院は保険適用の禁煙外来算定施設のため、3月より「病院敷地内全面禁煙」が指示されています。

国立病院機構
鹿児島医療センター 院長



当院では、平成18年8月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けて以来、ニコチン依存症に対する保険診療を開設することを模索してきました。保険適用をしない自由診療による自費での単なる「禁煙外来」では、がん診療連携拠点病院の立場上からも望ましいこととは言えないということで、保険診療適用の「禁煙外来」とすることにしました。すでに指摘されていることですが、このためには「病院敷地内が完全禁煙」であることが絶対条件とされています。今回、院長の中村一彦先生が“3月1日以降は、敷地内禁煙にする”という決断をされたことにより永年にわたり最大の障害となっていた問題が解決し、禁煙外来の開設が可能となりました。

当初の間は毎週水曜日の午前中、9:00～12:00 AMに予約診療を行います。(午後の時間帯は、院内職員の予約のみとします)。予約は総合外来受付、あるいは地域医療連携室で受け付けます。

禁煙外来の担当は、放射線科：牧野が受け持たせていただきます。過去20数年間に亘り「県内各所において禁煙講演の行脚を行ってきた実績」に基づき担当医としての届け出を致しました。小生も1日60本のヘビースモーカーから脱却しての禁煙に成功した経験の持ち主です。これから禁煙したい方々のお手伝いを致します。

(副院長：牧野正興)

新new人 紹face介

副看護部長



にしやま
西山 ゆかり

はじめまして副看護部長の西山です。
1月1日付で長崎医療センターより昇任してまいりました。

鹿児島医療センターに来て、まず感動したのは屋上からみた雄大な桜島の風景です。

また、周辺には文化施設が建ち並び、歴史の重みを感じ、このような素晴らしい環境で勤務できることを、うれしく思います。地域医療支援病院である本院の副看護部長としての役割を果たせるように頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

外来係長（地域医療連携係長）



ひらた よしゆき
平田 喜之

1月1日付で大分県の西別府病院より外来係長（地域医療連携係長）として、転任して参りました。鹿児島は初めての勤務となりますが、大分よりも気候が暖かく、寒さがこの上なく苦手な私にとって心地よい毎日をご提供しています。

鹿児島医療センターでは、地域医療支援病院・地域がん診療拠点病院の指定を受けており、地域医療連携室の一員として、まだまだ至らない点が多く勉強中ですが、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

地域医療連携室相談支援係



いけがみ まさこ
池上 真佐子

1月より、地域医療連携室の一員として働かせて頂くことになりました。未経験の分野での仕事のため、毎日手探り状態のなか勉強させて頂いております。「常に患者様と同じ位置・同じ目線」を心がけ、一日でも早くお役に立てるように努力してまいります。ご迷惑をお掛けすることが多いと思っておりますが、よろしくお願いいたします。

登録医医療機関紹介のコーナーを始めました

掲載希望の医療機関は
ご連絡下さい。

診療メモ

内科診療においては患者さんの訴えを十分聞き、全身の診察をする事は当然である。が、しかし、この当たり前がなされない事が往々にしてある。

循環器内科には「動悸がする」と訴えて来院する患者さんがいる。不整脈など循環器疾患を鑑別することは当然であるが、貧血、甲状腺機能亢進など全身疾患にも配慮されなければならぬ。40歳代の女性が「少し歩いても、ドキドキする」と来院した。診察すると眼瞼結膜に明らかな貧血あり、お腹を診ると下腹部に小児頭大の腫瘤を触れた。検査でヘモグロビン6台、心電図、心エコーなどで心疾患のない事を確認し、産婦人科で診てもらった。「子宮筋腫」の診断で手術を受け、元気になられた。なんの変哲もない、当たりの診断過程、治療への到達である。

最近の医療現場は厳しい、「少しの間違いも許さない」との風潮がある。もちろん、命を対象にした仕事であるので「間違い」は許されない、訴訟に至る事も多い。最近、立場上もそうしたトラブルに係る事が多くなった。そこで感じるのはやはり当たり前を当たり前にやることの重要性である。当たり前から外れるとトラブルになりやすい。

内科医になって40年近く、冷汗をかいた事を思い浮かべながら、患者さんの訴えを良く聞き、全身を診るといふ、当たり前を大事に診療させて頂いている。

(院長 中村一彦)

お問い合わせ先

独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）**

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
http://www.kagomc.jp
脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

(地域医療連携室) 濱田、岩下、平田、中島、田添、池上、善福
直通電話 ▶▶ 099-223-4425
フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
※休日・時間外は当直者で対応します。

